

理想は3人実際には2人の子

不安や負担感が原因に

現在の人口を増やすには、一人の女性が三人以上産む必要があります。しかし、本市では平成十五年現在、一・三六人まで落ち込んでしまいました。未婚晩婚が増えていることを考えると、さらにながってしまふことが心配です。

市民を対象にしたアンケート

によると、理想とする子どもの数は「三人」、実際に持つつもりは「二人」と答えた人が最も多く、理想と現実に食い違いがあるようです。また、その理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が多く、次いで高い割合を占めるのが「自分の仕事に差し支えるから」というこ



保育士から育児のアドバイス（粕川保育所子育て支援センター）

とでした。

理想とする人数の子どものを産むためには、育児にかかる金銭的負担を減らすとともに、仕事をしたいと考える親の支援をすることが大きな課題のようです。

また、専業主婦が家庭内で孤立してしまい、外部との疎外感を持たないような配慮も必要でしょう。気軽に育児などの相談ができるよう、市内九カ所の保育所（園）に子育て支援センターが設けられているそうです。

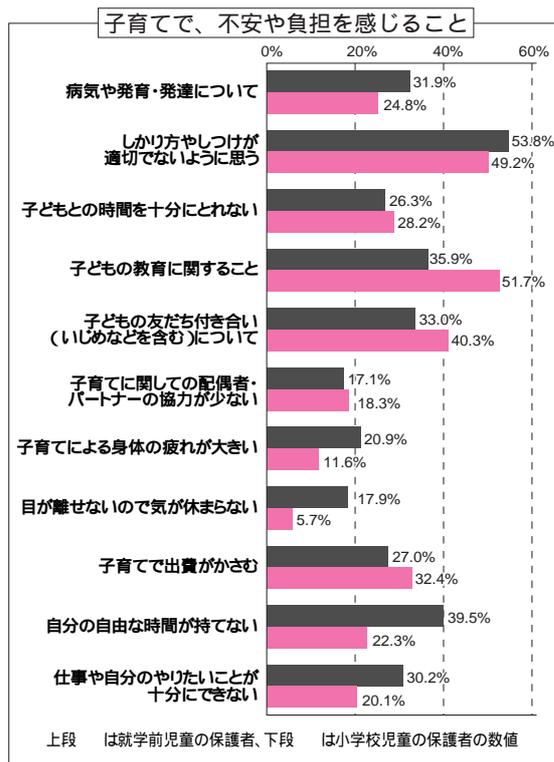
子育てに対する不安や負担感については、約六割の保護者が「非常に感じる」「何となく感じる」と答えています。

具体的には、下のグラフのとおり、二人に一人が「しかり方やしつけが適切でないように思う」

次世代育成支援行動計画で

地域ぐるみの子育てを

こうした状況を踏まえ、次世代育成支援行動計画では「子どもたちの幸せをみんなの幸せにするために」を基本理念に、環境の整備を目指しています。特に、地域社会全体が子育てを見守り支援する視点を重点に置いたことが特徴。子育てを各家庭だけの問題ではなく、地域全体で取り組み、保護者が子育てに



う」と感じています。また、小中学校生を持つ保護者はいじめや教育費に不安を感じ、就学前児童の保護者では、自分の自由な時間が持てないこと、病気や発

育・発達に対する不安を抱えています。このような不安や悩みが、理想どおりの育児、満足いく育児ができていないと感じる原因になっているようです。

計画策定に携わった「児童環境づくり推進委員会」で各年度ごとに実施状況を確認して、これからも、進行管理を続けていくそうです。

よって、より多くの喜びを実感できるように、そして、それが地域社会の明るい未来づくりへつながるとい考えです。子育てを取り巻く社会環境が年々変化し、それによって子育てのニーズも変わり、多様化しています。この計画は平成二十六年まで十年間の計画ですが、五年間で見直しを行うとともに、

育児や仕事で忙しく、子育て中の親だけでは手の回らないこともたくさんあり、地域の支援体制が増えることが少子化の進行に歯止めを掛け、地域の活性化につながるのではないのでしょうか。将来の社会の担い手を育てるために、地域を挙げての取り組みを進めていかななくてはなりません。